

チーム医療：呼吸ケアチーム（RST）

—関係部署—

心臓血管外科	口腔外科
外科	整形外科
血液内科	呼吸器外科
総合内科・感染症内科	看護局
内科	臨床工学科
循環器内科	リハビリテーション技術科

—概要—

2010年度の診療報酬改定から、呼吸ケアチーム（RST: Respiratory care Support Team）加算が新設された背景から、当院でも同年よりRSTが結成されている。

2021年度は、呼吸器内科医師(1名)、肺腫瘍内科医師(1名)、急性・重症専門看護師(1名)、集中ケア認定看護師(2名)、臨床工学技士(3名)、理学療法士(2名)をコアメンバーとし、人工呼吸器離脱及び呼吸ケアに係る専任チームとして活動した。

RSTの目的は、人工呼吸器の離脱に向け、患者家族の苦痛緩和を含む呼吸管理および看護方法の相談を受け、医療チームを支援することである。安全な呼吸ケア提供のために必要な知識を医療者に提供し、医療の質向上を目指した。

2021年度のRST依頼件数は27件で、延べ38名の患者に対して回診を行った。

活動内容は週1回の定期ラウンド(毎週水曜14時から1時間程度で対象患者は1～数名)に加え、定期ラウンド以外にも個人ラウンド(メンバーが単独で訪問し、主治医・受け持ち看護師と共にケアを実施)を行った。当該部署でのケア継続のために、回診時はRST診療録に記録し、回診内容の要点を担当スタッフに伝達した。スムーズな呼吸器離脱とその後の呼吸ケアについて助言する事で、患者の心身の苦痛緩和、安全確保、看護師のケア能力の向上を目指して相談を受け支援を行った。

呼吸ケアに関するデータ収集(人工呼吸器離脱率や離脱成功基準や失敗の理由・依頼状況や素因・人工呼吸器離脱患者数・人工呼吸器日数など)も、継続して行った。

また、RST内でのカンファレンスを開き症例検討を行う事で患者の問題点の共通認識を行い、ケア方法を検討する事で、より良いケアや介入を提案する事ができた。

—実績—

RST依頼件数 27件(回診患者数38名)

呼吸ケアに関するデータ収集結果

呼吸器離脱成功患者 15名

人工呼吸器離脱中止患者 6名

(呼吸器付き転院等で離脱の必要性が消失)

リハビリテーション技術科スタッフへの吸引手技教育

新採用者へのRSTチーム活動紹介:1回/年

RST主催勉強会2回(CE講師1回・PT講師1回)

RST主催勉強会18回(Ns主催 病棟毎開催)

—今年度の成果と反省点—

今年度の相談件数は前年に比べ減少したが、15名の患者が呼吸器からの離脱・抜管に至っている。最長40日以上的人工呼吸器装着をしていた患者も離脱する事ができており、短期的な離脱計画だけでなく、患者状態に合わせた長期的なPLANを立案し安全に呼吸器離脱を援助する事ができている。

また、今年度も呼吸に関係する活動として、リハビリテーション技術科スタッフ(理学療法士・作業療法士・言語療法士)に対して吸引手技の教育を行い12名のスタッフが手技を習得することが出来ている。吸引手技教育を修了したスタッフは23名以上となった。

またRST勉強会の開催回数を増やすことで、看護スタッフへ知識の教授を行う機会が増えた。

—来年度への抱負—

人工呼吸器離脱には様々な職種の協力が必要であり、それぞれの職種が呼吸についての知識を有する事が必要である。今年度は積極的にRST主催の勉強会を開催したことにより、専門職種から看護スタッフに対して、知識の向上や技術の修得が出来た。現状では集中治療部門においてのみ人工呼吸器装着患者の治療が行われているが、今後は一般病棟においても人工呼吸器管理が行えるように、知識・技術の定着化をはかるとともに、RSTによるサポートを活性化させ病棟全体・多職種による呼吸ケアの取り組みが出来るように活動を行っていく。

また、リハビリスタッフだけでなく、介護福祉士等への吸引手技教育の拡大をはかり、医療の質向上に貢献したいと考える。